

# これが民主主義だ！

韓国ドキュメンタリー映画

# 共犯者たち

「権力に媚びる放送か、国民の放送か」



(C) KCIJ Newstapa

「証拠もなく(プロデューサーの)私を解雇しましたね。理由は何ですか。教えてください」とキム・ジェチョル(金在哲)元MBC社長を問いつめるチェ・スンホ(崔承浩)監督。

キム氏は在任中に、200名余の記者・アナウンサーを解雇・懲戒した。



金在哲(キム・ジェチョル)MBC社長の退陣を求めてストライキをする労組員たち (C) KCIJ Newstapa

## 市民の支援で制作された映画 おどろく映像記録

この映画で驚くのはカメラがよく紛争の現場を撮っていることです。そこらじゅうにカメラがあって記録が残されていること。社長解雇に抗議して座りこむ局員の訴え、私服警官にろっ骨を折られた暴行の現場など。日本では考えられないことです。



解説者 岩崎貞明さん  
メディア総研事務局長

- 協賛
- メディア総合研究所
  - 神戸をほんまの文化都市にする会
  - 神戸学生青年センター
  - 神戸芝居カーニバル
  - 日本コリア協会・大阪
  - NHK・メディアを考える京都の会
  - 神戸映画サークル協議会
  - 市民社会フォーラム

NHKは政治権力から自立を！  
**NHKとメディアを考える会(兵庫)**  
 ニュース No.46 2018年12月

〒650-0044  
 神戸市中央区東川崎町1丁目5-7  
 神戸情報文化ビル3F文化村内  
 電話 090-5054-7171  
<http://nhkwatchers.web.fc2.com/>

# 韓国ジャーナリストたちのたたかい

## 「民主主義とは?」「メディアと市民の関係は?」

映画の背景を少しご紹介します。韓国の公共放送は2つあります。NHKと同じ公共放送「KBS」と、文化放送「MBC」です。

2008年、MBC放送が「アメリカ産牛肉輸入」で、「狂牛病問題疑惑」を報道したため、市民の怒りが高まり、イ・ミョンバク政権は支持を失いかけてきました。危機感を抱いたイ・ミョンバク大統領は、KBSとMBCに露骨な介入をして言論統制を始めました。政権に批判的な会長を辞めさせ、政府側の会長を送り込みました。安倍政権がNHKに榑井前会長を送り込んだのと同じです。調査報道のチームは解散させられ、記者たちは報道部門から追い出されました。公共放送が天気情報と「政府発表」だけをする政府の「広報機関」となったのです。

「共犯者たち」というタイトルは、主犯は大統領、共犯はメディア支配を助けたKBSやMBCの幹部という意味です。

2つの保守政権の9年間で、映画、報道、文化人のブラックリストが作られ、著名なジャーナリストや芸術家、国民的な俳優や文化人が職場を追われました。しかし、KBSとMBCの労働組合は弾圧に対してストライキで戦いました。

韓国には、「言論労組」という、放送・新聞・出版などの産業別労働組合があります。戦いの間、この「言論労組」がストライキで戦う労働者を支えました。

この映画の監督・チェ・スンホさんは、MBCの調査報道番組の人気プロデューサーでしたが解雇されました。その後、「ニュース打破」という、市民が支援するインターネット放送を立ち上げて「調査報道」を続けました。

半年にわたって1700万人が参加した「ろうそく革命」によってパク・クネ政権は倒れ、昨年5月、民主的なムン・ジェイン政権が誕生し、韓国の政治や放送が変わりつつあります。

この映画の公開後、チェ・スンホさんが推薦を受けて、MBCの会長に選ばれるという奇跡の大逆転劇が起きました。

韓国では、ジャーナリズムは国民のためにあるという原則が貫かれていると思います。

くわしい内容は、パンフレット「映画『共犯者たち』の世界」をご覧ください。



# ひと

韓国テレビ局への政治介入を追う映画を撮った

チェ スンホ 崔 承浩 さん(56)

「政治権力がメディアを掌握しようとする状況は日本も同じ。言論の自由を守るには、ジャーナリストが連携して闘うことだ」。韓国のテレビ局MBCで昨年暮れから社長を務める。

大学時代は演劇に熱中。MBC入社後、労働組合での民主化運動を通じ、言論の自由について考えを深めた。報道番組の看板プロデューサーとしてES細胞(胚性幹細胞)論文捏造問題など特報を連発したが、2012年、局への政治介入に抵抗する記者らのストライキを導いたとして解雇された。調査報道のNPOに加わり、4万人から寄付を受けてネット上で報道番組を提供した。「解雇されてなお、市民が応援してくれた」。

冤罪事件をめぐるドキュメンタリー映画の監督も手がけた。映画の第2作では、李明博、朴槿恵両政権がMBCなどの放送局の人事や報道内容に介入したとされる問題を追跡。タイトル「共犯者たち」は、権力に迎合して政権寄りの番組をつくり、記者らを解雇や左遷にした経営陣を指す。韓国では昨年、26万人が鑑賞。今月9、10日に東京で上映会がある。



文・写真 北野隆一

## 解説「共犯者たち」 岩崎貞明さん



岩崎貞明さん

ご紹介いただいた岩崎です。このようなイベントを企画された「NHK問題を考える会（兵庫）」の皆さんに敬意を表します。

わたしが事務局長を務める「メディア総合研究所」は、この映画の「上映実行委員会」をつくり、6月10日に日本で最初に東京の立教大学で上映を行ないました。600人くらいの参加で大変評判になりました。その関係で私が「映画解説」にうかがった次第です。

解説は、私もブックレット『「共犯者たち」の世界』に書いていますのでぜひ、ご覧ください。

この映画は韓国の人にとっては当然わかっている部分が、説明されていないので、そこを解説します。

### 韓国の公共放送は二つ

韓国には大きな放送局が2つあります。KBSとMBCでどちらも公共放送ですが、KBSは受信料で運営されているのでNHKに近い形です。

韓国では、イ・ミョンバクとパク・クネと9年間続いた保守政権との間に政権による介入と支配を受けて、政権寄りの経営者が続きました。政権に批判的な番組やプロデューサーが解雇されたことが映画に出てきます。少し細かく説明すると、NHKの場合は、「経営委員会」という組織がNHKの経営と管理をしていますが、この経営委員会が会長を選任するしくみです。経営委員の中に百田直樹さんみたいな人がいるとNHKの会長に舛井（勝人）さんみたいな人になるわけです。

韓国では、行政機関として有識者による「放送通信委員会」という組織があつて、この中にイ・ミョンバク大統領が親しい人を委員として選任させて、「放送通信委員会」が会長に大統領に近い人物を選出するという2段階の手続きをして政権寄りの放送機関にしたのです。

大統領批判の番組がなくなったばかりでなく、大きな問題が正しく放送されない状態になりました。

### 「セウォル号」「ろうそくデモ」 2大事件をどう報道したか

映画の中に、2つの大きな事件が出てきます。1つは2014年、高校生300人が亡くなった「セウォル号沈没事件」です。これについて大統領府(青瓦台)から電話が来て「あまり大きな事故に見せないように」「全員救助された」という政府発表そのままに新聞やKBS、MBCが放送したのです。



ブックレット  
「共犯者たち」の世界  
(夜光社)

もう一つは、2016年の「ろうそくデモ」の発端になった「チェ・スンシルゲート事件」。これはパク・クネ大統領の個人的に親しいチェ・スンシルという女性を政治に深く関与させた政治の私物化の問題です。

どこかで聞いたような話で、「モリ・カケ」問題とすごく似ているような気がします。(会場 笑い)  
このデモは、最初は学生から始まったと言われたのですが、青瓦台(大統領府)からソウル市役所にかけての大きな通りに毎週100万人がろうそくを持って、大統領を訴えるというデモでした。それでパク・クネ大統領は退陣せざるを得なくなりました。

映画の中では出てきませんが、MBCは「ろうそくデモがたいしたことではない」という映像をワザと作って流しました。大統領を支持する太極旗(韓国国旗)を振っているデモを大がかりに見せる一方、ろうそくデモをわずかのようなニュースを作っていました。

### 「MBCは帰れ！」と

なので、この映画の中では、MBCのスタッフがろうそくデモ取材に行くと、市民から「正しい放